

# Asia Indicators

発表日: 2024 年5月 10日(金)

タイのインフレ率は7ヶ月ぶりのプラスに転じる(Asia Weekly(5/3~5/10))

~生活必需品のみならず幅広くインフレ圧力が強まる動きが顕在化している~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/3(金)	(タイ)4月消費者物価(前年比)	+0.19%	▲0.25%	▲0.47%
	(シンガポール)3月小売売上高(前年比)	+2.7%	--	+8.4%
5/6(月)	(インドネシア)1-3月実質GDP(前年比)	+5.11%	+5.00%	+5.04%
5/7(火)	(フィリピン)4月消費者物価(前年比)	+3.8%	+4.1%	+3.7%
	(オーストラリア)金融政策委員会(政策金利)	4.35%	4.35%	4.35%
	(台湾)4月消費者物価(前年比)	+1.95%	+2.10%	+2.15%
5/8(水)	(フィリピン)3月輸出(前年比)	▲7.3%	--	+15.8%
	3月輸入(前年比)	▲20.0%	--	+6.5%
	(台湾)4月輸出(前年比)	+4.3%	+10.1%	+18.9%
	4月輸入(前年比)	+6.6%	+7.6%	+7.1%
5/9(木)	(フィリピン)1-3月実質GDP(前年比)	+5.7%	+5.9%	+5.5%
	(マレーシア)金融政策委員会(政策金利)	3.00%	3.00%	3.00%
	(中国)4月輸出(前年比)	+1.5%	+1.5%	▲7.5%
	4月輸入(前年比)	+8.4%	+4.8%	▲1.9%
5/10(金)	(マレーシア)3月鉱工業生産(前年比)	+2.4%	+2.5%	+3.1%

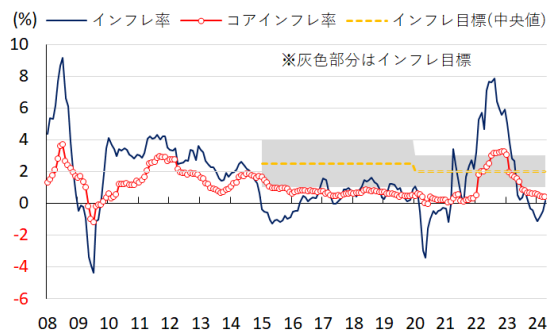
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [タイ]~生活必需品を中心に幅広くインフレ圧力が強まるなかでインフレ率は7ヶ月ぶりのプラスに転じる~

3日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+0.19%となり、前月(同▲0.47%)から7ヶ月ぶりのプラスに転じている。前月比も+0.85%と4ヶ月連続で上昇している上、前月(同+0.03%)から上昇ペースも加速しており、昨年末以降の国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格は上昇の動きを強めているほか、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.37%と前月(同+0.37%)と同じ伸びで推移しており、インフレ率とともに中銀目標(2±1%)の下限を下回る伸びが続いている。ただし、前月比は+0.05%と前月(同▲0.01%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇を反映した輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における通貨バツ安の進展を受けた輸入インフレ圧力の高まりも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、経済活動の正常化の動きを反映してサービス物価も緩やか

な上昇が続いており、緩やかにインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

図1 TH インフレ率の推移



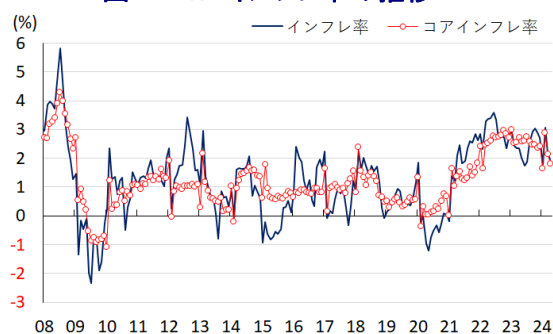
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [台湾]～インフレ率は鈍化も幅広くインフレ圧力はくすぶる一方、輸出底入れの動きに一服感が出ている～

7日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+1.95%となり、前月（同+2.15%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+0.56%と前月（同▲0.65%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、昨年末以降の国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格が上昇の動きを強めているほか、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇に転じる動きをみせるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+1.81%と前月（同+2.14%）から伸びが鈍化している。しかし、前月比は+0.57%と前月（同▲0.53%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における台湾ドル安を受けた輸入インフレ圧力の動きも重なり幅広く財価格が押し上げられる動きがみられるほか、経済活動の正常化が進むなかでサービス物価にも押し上げ圧力が掛かるなど、幅広くインフレ圧力がくすぶる展開が続いている。

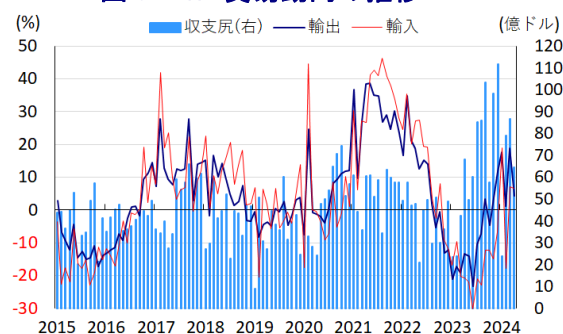
8日に発表された4月の輸出額は前年同月比+4.3%となり、前月（同+18.9%）から伸びが鈍化している。前月比も▲2.3%と前月（同+4.9%）から3ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連を中心に輸出に下押し圧力が掛かるとともに、鉱物資源や化学製品など素材・部材関連の輸出も下振れするなど全般的に鈍化している。国・地域別でも、米国向けは堅調な推移をみせているものの、最大の輸出相手である中国向けに一服感が出ているほか、日本向けや欧州向け、アジア新興国向けの鈍化が輸出全体の重石となっている。一方の輸入額は前年同月比+6.6%となり、前月（同+7.1%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+1.1%と前月（同+7.7%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。輸出の底堅さを反映して素材・部材関連の需要が押し上げられているほか、原油をはじめとする国際商品市況の底入れの動きも輸入を押し上げている。結果、貿易収支は+64.60億ドルと前月（+86.75億ドル）から黒字幅が縮小している。

図2 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW 貿易動向の推移



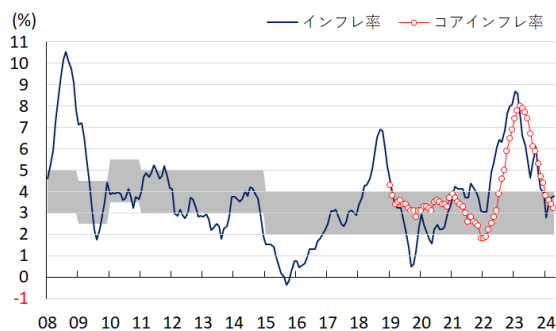
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [フィリピン]～インフレはわずかに加速する一方、年明け以降に底入れした輸出入双方で早くも一転する動き～

7日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+3.8%となり、前月（同+3.7%）からわずかに伸びが加速している。ただし、前月比は▲0.08%と前月（同+0.08%）から6ヶ月ぶりの下落に転じており、昨年末以降の国際原油価格の底入れにも拘らずエネルギー価格の上昇の動きに一服感が出ているほか、穀物価格は上昇が続く一方で生鮮品をはじめとする食料品価格は下落が続いており、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.2%と前月（同+3.4%）から伸びが鈍化しており、インフレ率とともに中銀目標（2～4%）の域内で推移している。前月比も+0.16%と前月比（同+0.24%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇一服にも拘らず輸送コストに押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、国際金融市場における通貨ペソ安による輸入インフレ圧力の高まりにも拘らず、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせている一方、サービス物価に上昇圧力がくすぶるなど、インフレを巡る動きはまちまちの様相をみせている。

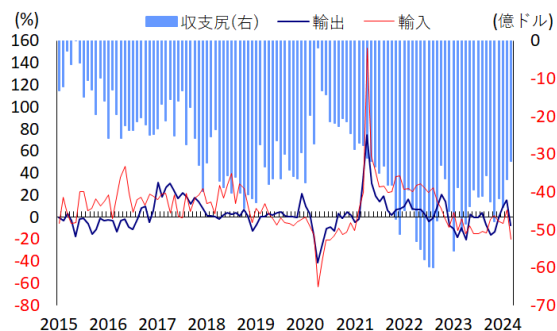
8日に発表された3月の輸出額は前年同月比▲7.3%となり、前月（同+15.8%）から3ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じており、年明け以降に底入れの動きが確認された流れは早くも一転している様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の輸出に底堅さがみられるものの、農作物や鉱物資源関連のほか、製造業関連など幅広い分野の輸出が下振れしたことが輸出全体の重石となっている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けは底入れしている上、米国向けにも底堅さがうかがえるものの、日本向けやEU向けは頭打ちの動きをみせているほか、ASEANなど周辺国向けが下振れしていることが輸出全体を下押ししている。一方の輸入額は前年同月比▲20.0%となり、前月（同+6.5%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。財別では、半導体など素材・部材関連の輸入が下振れしているほか、鉱物資源関連や日用品関連の輸入も幅広く鈍化するなど全般的に鈍化している。結果、貿易収支は▲31.81億ドルと前月（▲36.62億ドル）から赤字幅が縮小している。

図4 PH インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 PH 貿易動向の推移

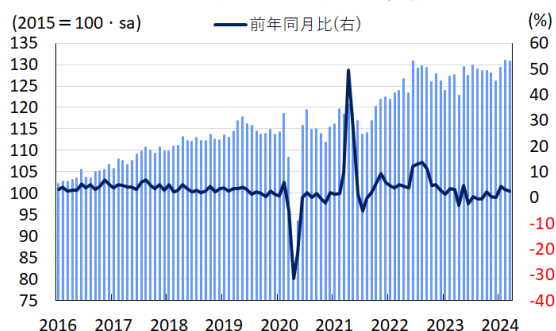


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～電子部品関連の生産に底堅さも、鉱業部門や化学工業関連の生産は鈍化するなど対照的な動き～

10日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+2.4%となり、前月(同+3.1%)から伸びが鈍化している。前月比も▲0.19%と前月(同+1.27%)から3ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。分野別では、原油や天然ガスといった鉱業部門の生産が下振れする動きがみられる一方、製造業の生産は緩やかな拡大が続くなど堅調に推移しており、なかでも主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連などの堅調さが下支えしているほか、金属関連なども底堅く推移している。一方、製造業のうち自動車をはじめとする輸送用機械関連の生産は弱含む動きをみせているほか、化学工業関連の生産も鈍化するなど分野ごとに跛行色がうかがえる。また、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、内需の底入れの動きに一服感が出ている可能性がある。

図6 MY 鉱工業生産の推移

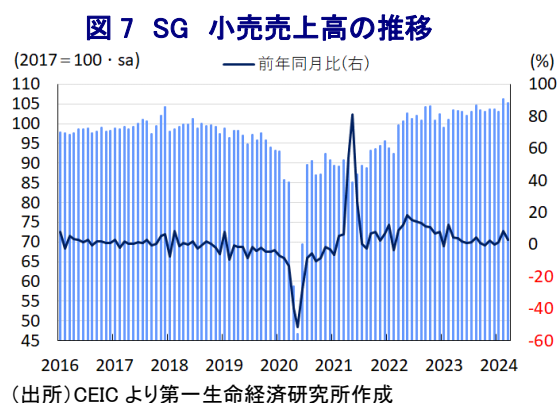


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール]～耐久消費財関連で需要下振れも、生活必需品や日用品などで需要に底堅さがうかがえる～

3日に発表された3月の小売売上高は前年同月比+2.7%となり、前月(同+8.4%)から伸びが鈍化している。前月比は▲1.01%と前月(同+3.12%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。同国では月ごとの自動車販売の動向が上下に大きく振れるとともに、小売売上全体の動向を左右する傾向があり、当月は前月比▲5.71%と前月(同+12.48%)に大きく上振れした反動で減少するなど、小売売上全体の足を引っ張っていることが影響している。なお、自動車販売を除いたベースでは前月比▲0.31%と前月(同+1.87%)から3ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い

動きが続いている。耐久消費財に対する需要や余暇消費関連で下振れする動きがみられるも、生活必需品に対する需要は堅調な推移をみせているほか、宝飾品など高額品に対する需要も底堅く推移している。雇用を取り巻く環境に頭打ち感が出る動きがみられるものの、家計消費を巡る動きは全般的に底堅さを維持している。



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。